

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
書翰の部										
1	新居格書簡	新居格		昭和20年1月6日		時節柄執筆活動不能のため水産関係文献収集に意欲あり時節柄困難のことと思うが文化人閣下の会長時代にその基礎固めを望む				
2	新井弘蔵書簡	新井弘蔵		昭和16年2月23日		大政翼賛会事業の趣旨貫徹に尽力を願う念願の小学生農業訓練の着手喜びに堪えず				
3	有馬頼寧書簡[...]	有馬頼寧								
3-1	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	下村宏	昭和16年10月24日		大政翼賛会改組を機会に引退するも傷心政治に未練あり政治の革新新体制の必要性を信じる革新は団体に背くものではなく皇室・国家のためにあり何故赤と非難されるや近衛公当代第一の人物ながら天皇の側近であって政治に不向きか「英雄待望論」必ずしも鶴見君だけではない				
3-2	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	有馬頼義	昭和17年5月15日		返書すべて義ちゃんと本人の責任であれば異義なし入営後の六番町の留守の世話我が子ならず忠節を尽くす兵士に対する気持ちで行う将来のこと内地に帰り除隊後相談母上に心配かけぬ様				
3-3	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	加藤敏一	昭和21年8月13日		度々の手紙を感謝大変革の時代農村漁村問題は重大性を持つ農村漁村文化協会の一層の努力が望まれる				
4	原彪書簡	原彪		昭和16年3月28日		翼賛会改組に当たり学兄退陣は遺憾今回の人事は政治力の後退と推察翼賛会は出発点に誤りあり有馬会談当時の意図を徹底されるべきであった自己の踏み台に利用する運動家の一部には警戒を				
5	細野三千雄書簡	細野三千雄		昭和2年7月5日		労働教育会臨時理事会（五月二三日）報告				
6	船田中書簡	船田中		昭和21年6月9日		巢鴨拘置所入所中御機嫌伺い				
7	古垣鉄郎書簡	古垣鉄郎		昭和24年11月16日		ご提案の件同感芳書は「私達の言葉」で放送の価値あり				
8	池田成彬書簡	池田成彬		昭和24年7月25日		米国サミエル・フライマン氏からの写真転送				
9	生田正吉書簡	生田正吉		昭和26年10月8日		小生福岡県三井郡会川村有馬家旧別邸購入せしもの売却時の土地面積等の確認致したく乞う返報の段				
10	今村明恒書簡[...]	今村明恒								
10-1	今村明恒書簡	今村明恒		昭和2年11月29日		東京帝国大学理学部地震学に研究費として震災共同募金五千円寄付決定の件御礼				
10-2	今村明恒書簡	今村明恒		昭和21年9月4日		震災記念塔碑私案作成につきご高覧を				
11	稲富稜人書簡	稲富稜人		昭和31年12月24日		入院見舞返礼				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
12	井野碩哉書簡	井野碩哉		昭和18年1月4日		帝国水産株式会社設立の際種々ご迷惑あったと察するも重役陣は貴兄今後のご活躍に寄与することと確信				
13	犬養毅書簡	犬養毅		昭和2年5月19日		明二〇日の閣下の慰労会先約のため欠席この際閣下を貴族院勅選に推薦の話あり				
14	入沢文明書簡	入沢文明		昭和16年4月4日		亡父病状報告				
15	石橋正二郎書簡	石橋正二郎		昭和24年11月1日		三女啓子の縁談の件				
16	石黒忠篤書簡[...]	石黒忠篤								
16-1	石黒忠篤書簡	石黒忠篤		昭和2年3月27日		大兄襲爵の件同封新聞記事を見て心配この際速やかに手続されることが最善				
16-2	石黒忠篤書簡	石黒忠篤		昭和15年5月20日		「無雷庵雑記」礼状				
16-3	石黒忠篤書簡	石黒忠篤		昭和29年5月25日		久方振りに木戸侯と面談				
16-4	石黒忠篤書簡	石黒忠篤		昭和30年11月20日		来春の参議院選全国区から出馬予定ポーランド元首相ミコライチク来日各地を案内旁々九州・四国・近畿を回り疲労				
17	石井光次郎書簡	石井光次郎		昭和年1月12日		歳暮御礼				
18	岩佐新書簡	岩佐新		昭和28年8月13日		青木繁絵画の件お譲り頂きたい旨石橋より申し出あり				
19	岩田宙造書簡	岩田宙造		昭和27年4月7日		追放解除慶賀の至り				
20	賀川豊彦書簡[...]	賀川豊彦								
20-1	賀川豊彦書簡	賀川豊彦		昭和2年3月25日		父上のご逝去を悼む政友会退会後社会事業に没頭の由私に代わって東京学生消費組合長を依頼いたし度当方大阪・神戸のセツルメントで多忙				
20-2	賀川豊彦書簡	賀川豊彦		昭和13年1月28日		今回統制商工組合法発布につき産業組合法との関連で相当問題あり消費組合の発達に妨害なきよう吉野商工相にご相談願ひ度				
20-3	賀川豊彦書簡	賀川豊彦		昭和14年10月15日		先般来よりの「火災保険組合」の件金光拓相産組理解あり同氏占有「新日本」を手離すとのこと三井系火災保険会社が競争者として出現の様様石黒忠篤氏も火災保険組合賛成先手をとる決断を				
20-4	賀川豊彦書簡	賀川豊彦	有馬貞子	〔昭和21年カ〕12月31日		日本協同組合同盟設立一年を経過東京組合総連合会も荷受け団体の許可を得るアメリカ友人からココア入手笑納されたし				
20-5	賀川豊彦書簡	賀川豊彦		〔昭和21年カ〕1月1日		丁重なる手紙に感激水平社よりのマ司令部宛陳情書英訳して近日上京予定伯爵の為新約聖書一冊入手				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
20-6	賀川豊彦書簡	賀川豊彦	有馬貞子	昭和21年2月1日		国民栄養協会理事長職有馬伯が不自由の身の間専務理事の私が兼任しても可有馬伯に御伝言を乞う				
21	亀井貫一郎書簡	亀井貫一郎		昭和2年12月8日		小生亀井茲常の分家のもの拝眉致したくご都合如何				
22	苅田久徳書簡	苅田久徳		〔昭和21年カ〕2月28日		小生復員帰還御不自由の身を痛恨禁じ得ず				
23	加藤武雄書簡[...]	加藤武雄								
23-1	加藤武雄書簡	加藤武雄		昭和21年11月18日		歌集拝読窪田空穂氏に届け感想を依頼				
23-2	加藤武雄書簡	加藤武雄		昭和21年12月26日		歌集草稿窪田氏の手元にあり今暫く猶予を				
24	風見章書簡[...]	風見章								
24-1	風見章書簡	風見章		昭和15年5月21日		「無雷庵雑記」贈呈礼状				
24-2	風見章書簡	風見章		昭和15年6月4日		太田氏の件昨日電話にて申し上げし通り但し村田氏には未だ通ぜず各方面に了解済み急速にて運びて可河上丈太郎氏来たり旧社大系中最低三人をと依頼申出あり別紙お届け申し上げ度なお三輪氏急に九州へ旅行したるにつき同氏の代人来る今日新聞に昭和研究会攻撃の蓑田氏の著書の広告ありどこかでいやがらせを策動しつつあるに非らずや小生も注意いたします故後藤君にもご注意頂き度				
24-3	風見章書簡	風見章		昭和15年12月21日		昨日午前近衛公と相談の節内務大臣に適任者を欠いたりとして改造急なる模様なきため形勢不明のところ昨夕刻より多分木戸氏斡旋ならんか急に模様替えとなり昨夜半より今朝にかけて事を決したらしく定めて御意外とされたる事ならんか事情御酌量され度尚昨日申し上げた翼賛会運動費不足分を機密費にてまかなうこと本日近衛公に進言				
24-4	風見章書簡	風見章		〔昭和15年カ〕月4日		永井柳太郎氏を総務長とする案如何人が悪いようだがこの椅子に居らしめて事やりよかるべし				
24-5	風見章書簡	風見章		昭和19年10月17日		贈品謝礼毎日新聞紙上座談会記事胸のすく思いで拝読				
24-6	風見章書簡	風見章		昭和19年12月24日		警報発令中のため拝眉の機を得ず残念新春に上京				
24-7	風見章書簡	風見章		〔昭和20年カ〕5月3日		小生先般住宅疎開を命ぜられ郷里に立ち退く人界異変甚大なれども田園自然はのどか新生活も一興あり				
24-8	風見章書簡	風見章		昭和20年9月4日		貴書拝読まこと申しようもなき時局なり何れそのうち上京いたし拝眉のうえご高教仰ぎ且つ心事も申し上げ度				

有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
24-9	風見章書簡	風見章		昭和20年9月23日		私見ながら満州事変以来の指導者の責は外から問われず内から問われるべし当地にて静観こそ正かるべしと考えしばらく上京を中止				
24-10	風見章書簡	風見章		昭和20年10月7日		ご意見深く敬服小生も戦争犯罪人の一人として嫌疑十分なるべし結果がでるまで当地を離れず客観的情勢はロシア・フランスの革命史を同巧異曲にて見る思いす				
24-11	風見章書簡	風見章		昭和20年10月24日		地方農村ですら食糧問題深刻失業の圧迫は土地飢饉を招く帰農者の生活条件悪し現在の指導者がどうあろうと共産主義的運動が勝利を占めると予測苦難が我々の前途に待つ運命				
24-12	風見章書簡	風見章		昭和20年12月7日		ラジオにて近衛公逮捕令を受けたる由おのが身を同じ運命に置かるべきかと思ひ上京を見合わせ				
24-13	風見章書簡	風見章		昭和21年12月6日		目下郷里での農家翁となる日々わが民族が復興するには世界最低度の生活を甘受する決心が必要				
24-14	風見章書簡	風見章		昭和22年1月23日		門外不出の生活三年長塚節「土」の素材そのままの生活				
24-15	風見章書簡	風見章		昭和23年2月7日		同僚で消息あるのは尊台あるのみ田舎にも流浪者増加物騒なる昨今なり				
24-16	風見章書簡	風見章		昭和23年11月23日		貴著受領新米供出後新米背負って上京のつもり				
24-17	風見章書簡	風見章		昭和26年10月5日		来週上京の予定				
24-18	風見章書簡	風見章		昭和26年10月15日		一八日は取手駅まで出迎え度				
24-19	風見章書簡	風見章		昭和年2月19日		手作りの米を上京する長男に託す				
24-20	風見章書簡	風見章		昭和年3月5日		久方振り総理官邸附近歩き感無量				
25	梶井剛書簡	梶井剛		昭和21年4月20日		留守宅に伺いし折りトランプご入り用と聞き手許にあるもの御受領下され度小生昨今閑暇を得て学校の方に力を入れ度				
26	加治室哲書簡	加治室哲		昭和26年8月		暑中見舞				
27	木戸幸一書簡[...]	木戸幸一								
27-1	木戸幸一書簡	木戸幸一		昭和21年9月13日		ご出所の由小生相不変元気裁判遅々として進まず他人毎の様に悠々と構えて入る次第来年三月頃迄かかると予測次男孝彦御宅へ罷出とのこといかなる形で小生が訴追せられるか一五年五月の新党運動に重点を置かれて論ぜられる場合証人をお願い致し度当時の日記（昭和一五年四月一四日-六月一日）抜粋をお手許に差し上げます故お考え置き下さる様				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
27-2	木戸幸一書簡	木戸幸一		昭和27年9月25日		選挙運動終末期ご多忙を推察今度初めて不在投票をさせられ今朝済ませたところ一歩娑婆に近づいた感ありその反面積放問題低調新内閣誕生後のことか日暮れて道遠しの感あり				
28	木村錦花書簡	木村錦花		昭和18年11月14日		拙著「守田勘弥」送付				
29	木村修吉郎書簡	木村修吉郎		昭和25年4月22日		玉稿拝読なるべく原文のまま掲載予定但し橋本実斐・小泉信三等の掲載予定の為掲載は先のこと悪しからず				
30	草繁全宜書簡	草繁全宜（金剛寺）		昭和年10月16日		ラジオの御講演に感激地方巡回教師に宣布のためレコード又は印刷物御寄贈乞う				
31	高者浄観書簡	高者浄観	有馬貞子	昭和13年5月13日		幣山今度大阪府が新たに指定した一二史蹟中に加えられ折しも上人（西行）七五〇年遠忌到来を迎え嬉しきこと				
32	熊谷恒子書簡[...]	熊谷恒子								
32-1	熊谷恒子書簡	熊谷恒子		昭和23年9月4日		書道展出品の拙作目に止めていただき光栄目下大阪にて展示出品中につき戻り次第お届けいたしたく				
32-2	熊谷恒子書簡	熊谷恒子		昭和23年11月1日		本日便にて書お届け申し上げ度価額三千円也				
32-3	熊谷恒子書簡	熊谷恒子		昭和23年11月6日		早速に潤筆料お届けいただき光栄				
32-4	熊谷恒子書簡	熊谷恒子		昭和24年1月1日		年賀				
33	倉富勇三郎書簡	倉富勇三郎		昭和年1月1日		昨日枉車御来臨恐縮拝顔のうえ御礼申上儀動作不自由のため失礼				
34	牧野伸顕書簡[...]	牧野伸顕								
34-1	牧野伸顕書簡	牧野伸顕		昭和19年1月1日		年賀				
34-2	牧野伸顕書簡	牧野伸顕		昭和19年12月30日		非常時下ご健勝の事と推察お届けの品ご厚情深謝配給時代の折食糧は新年に用い度く				
35	丸山義二書簡[...]	丸山義二								
35-1	丸山義二書簡	丸山義二		昭和25年4月18日		新居竣工農民文学の集まり昨年から開催先生中心の集まりを皆希望				
35-2	丸山義二書簡	丸山義二		昭和年2月6日		吉原さんから受信羽仁五郎氏に近日報告の予定				
36	松田甚次郎書簡	松田甚次郎		昭和13年11月11日		農業報国連盟発会式の出席を深謝今後の農村教育・経営は満州・中支を考慮するのが肝要閣下のご援助で現地見学を希望				
37	松前重義書簡	松前重義		昭和年12月		贈物御礼正月拝顔の上近況報告致し度				
38	松下高書簡	松下高		昭和年7月21日		弊社コーン缶詰本日鉄道便で送付				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
39	真崎勝次書簡	真崎勝次		昭和年5月21日		御本願の放送謹聴仕り候				
40	三宅竜子書簡	三宅竜子	有馬貞子	〔昭和2年カ〕4月26日		父上様のご逝去を悔む				
41	宮本武之輔書簡[...]	宮本武之輔								
41-1	宮本武之輔書簡	宮本武之輔		昭和15年5月21日		「無雷庵雑記」拝受近衛公並びに尊台の政治的理念を興味深く拝察日本の革新は政治の根本的思想や全面に亘ることで貴族院改革だけ論議するは無意味小生佐々木行忠侯に貴族院勅選議員中技術界の有能士を加えるべく申し入れ同侯の賛成を得				
41-2	宮本武之輔・松前重義書簡	宮本武之輔・松前重義		昭和年7月17日		近衛内閣の性格並びに新党運動の将来につき憂慮に堪えず急遽松前君と相談の上然るべき工作を施したところ形勢必ずしも不利ならざるを喜ぶその後の情報を携え何うもご不在なれば所見申上度近衛内閣に革新内閣たる性格を与えること新体制運動を促進すること等物事を淡泊に断念せずご推進の程				
42	宮崎燁子書簡[...]	宮崎燁子								
42-1	宮崎燁子書簡	宮崎燁子		昭和24年12月6日		お手紙拝見久留米の野田夫人よくよく困窮の様子勝俣夫人と見舞い金送付近ごろの歌人うまく形を整えることの方が多し				
42-2	宮崎燁子書簡	宮崎燁子		昭和30年10月		「ひとりごと」有益に拝見第一号から揃えたく竜介宛ご送付願度				
43	三輪寿荘書簡	三輪寿荘		昭和21年6月17日		一日も早く出所されるよう高橋・近藤弁護士も協力当方戦災復興本部理事長退任弁護士に専心				
44	永井柳太郎書簡[...]	永井柳太郎								
44-1	永井柳太郎書簡	永井柳太郎		昭和15年7月29日		大兄よりの勧誘に基づき民政党をして挙党新政治体制に参画の運動も町田総裁並び其の周囲の人々の特殊なる立場と小生の微力の為予期した効果を取るも能わず党内の時局認識の対立表面化遂に小生等約四〇名脱党今後近衛公の新体制確立に協力すべき方策につきご意見伺い度				
44-2	永井柳太郎書簡	永井柳太郎		昭和15年10月20日		次回選挙に豊橋君福岡より立候補の希望ある由内々岡野君に申し伝え考慮を求め度現在旧民政系岡野・旧政友系増永及び東方会の稲富の三人の由有馬伯が出馬とあらば擁立で一致岡野・豊橋両君の人柄頗る好感両人も当選しうる方法を講じたきもの新体制運動もご苦勞と拝察運動の前途を憂慮す				
44-3	永井柳太郎書簡	永井柳太郎		昭和19年11月29日		御見舞深謝盲腸炎に復膜炎併発し入院（代筆）				
45	長與善郎書簡	長與善郎		昭和13年6月13日		平山（北岡）豊三君就職の件				
46	中村孝也書簡[...]	中村孝也								

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
46-1	中村孝也書簡	中村孝也		昭和30年11月20日		「ひとりごと」御礼				
46-2	中村孝也書簡	中村孝也		昭和年10月27日		拝復「元禄時代観」は古本屋で入手次第ご通知				
47	中野家子書簡	中野家子		昭和26年12月7日		「暮らしの手帖」一五号原稿催促				
48	難波英夫書簡	難波英夫		昭和年4月15日		油絵二枚処分依頼				
49	野口幽香書簡	野口幽香	有馬貞子	〔昭和4年カ〕12月27日		バザー売り上げ成績上々純益千円に達す				
50	岡幸三郎書簡	岡幸三郎(代)		〔昭和26年カ〕月		博多かまぼこ発送通知				
51	太田保一郎書簡	太田保一郎		昭和11年1月11日		贈物礼状				
52	笠信太郎書簡	笠信太郎		〔昭和28年カ〕12月20日		此程新築祝いに河井寛次郎の作品を送達				
53	斎藤実・春子書簡	斎藤実・春子		昭和2年6月8日		四月二五日神戸発四五日目漸くゼノアに安着セネヴァにおける会議に出席予定				
54	柴藤夕力・斎藤・緒方竹虎書簡	柴藤夕力・斎藤・緒方竹虎		昭和年12月7日		福岡常盤館にて寄書き				
55	千石興太郎書簡	千石興太郎		昭和20年12月8日		連合軍の召喚命令貴台まで及ぶとは意外何処まで飛大するや危険千万健康御留意被下度				
56	志賀直哉書簡	志賀直哉		昭和15年5月20日		「無雷庵雑記」礼状				
57	島田俊雄書簡	島田俊雄		昭和16年5月22日		小生訳評「一八史略」改訂版御一読を昨年来の御心労を同情近衛公という特別な人物を相手に仕事なされた事御心境推察翼賛運動のあおりを受け小生用事なく閑居近々他人を交えず語りたく				
58	島野幸次書簡	島野幸次		昭和24年12月30日		歌集「千帆」礼状				
59	下村宏書簡[...]	下村宏								
59-1	下村宏書簡	下村宏		昭和8年11月4日		御母堂御逝去弔意				
59-2	下村宏書簡	下村宏		昭和25年3月30日		小生目下「海南自叙伝」と「新方丈記」に老筆を続け居り大兄も昭和の新徒然草起草に御精進かと推察				
60	末次信正書簡	末次信正		昭和15年12月21日		臨時中央協力会議所感組織・運営については一般的理解に到達憲法関係の法理問題・違憲という事あり得ぬと理解熱心な討議は在来の諸会議にない真剣さが横溢翼賛会の前途を期待				
61	杉山元書簡	杉山元		昭和年7月		御来訪辱けなくご厚情深謝				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
62	杉山茂丸書簡	杉山茂丸	進藤喜平太	昭和7年8月9日		拝復頭山氏とも相談種々入り組たる事情のため甚だ困難				
63	鈴木成高書簡	鈴木成高		昭和24年11月2日		本日足利夫妻の御来訪にて高吟集拝受				
64	祥雲寺寿正書簡[...]	祥雲寺寿正								
64-1	祥雲寺寿正書簡	祥雲寺寿正	有馬家	昭和年3月21日		慈院様御祥月御供之儀承知請仕				
64-2	祥雲寺寿正書簡	祥雲寺寿正	有馬家	昭和年7月21日		大慈院殿御手書御公義経一部御高納珍重保管可仕御請迄				
65	田畑政治書簡	田畑政治		昭和31年11月26日		オリンピック選手団の派遣につき格別のご支援を深謝				
66	高橋三吉書簡	高橋三吉		昭和年11月10日		墨絵				
67	高島米峰書簡	高島米峰		昭和21年7月29日		暑中見舞				
68	打木村治書簡	打木村治		昭和15年12月4日		祖国を離れるに際しご高配を有難く東京駅での頼義さんはホームの華航海快適今朝未明大連に入港港で和田君に会う本日ヤマトホテルに入り元気乞ご安心				
69	立野信之書簡	立野信之		昭和26年2月16日		「政界道中記」御恵贈深謝拙著「公爵近衛文麿」の出版記念会御令息の出席恐縮「近衛伝」執筆に当たっては御教示預かるべきところ念願を達し得ず調査不足を後悔後編は人間近衛に重点を置き執筆のつもり御指導願ひ近日参上いたしたく				
70	徳川義親書簡[...]	徳川義親								
70-1	徳川義親書簡	徳川義親		昭和21年2月24日		今年は温かで梅が咲きだすも梅見る人はなし千石老元氣井川君共栄保険・開拓両社長と協同党幹事長等多忙新紙幣の発行で今後一人百円余で暮らすのは大変貴族院は閑日月なり				
70-2	徳川義親書簡	徳川義親		昭和21年7月28日		闇市繁盛配給不円滑米国からの食糧放出なければ都会は餓死の様社会党大きくなるが未だ内部にゴタゴタあり協同党も協同民主党となり井川氏独り奮闘貴族院は憲法が変わらずとも廃止されるべき				
71	東京学生消費組合書簡	東京学生消費組合		昭和11年2月5日		創立一〇周年の歴史的背後に先生のご援助を感謝する動議可決				
72	頭山満書簡	頭山満	進藤喜平太	13日		御尽力相成其分一寸間に合はず就いては彼中二百丈ご持参下度百円は兄御用に供したく				
73	鶴見祐輔書簡[...]	鶴見祐輔								
73-1	鶴見祐輔書簡	鶴見祐輔		昭和22年2月7日		昨年末意外な御奇禍に罹られ御難渋と推察小生昨年より熱海に居住				



有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
73-2	鶴見祐輔書簡	鶴見祐輔		昭和22年2月15日		近衛さんの最期往年を想起して気の毒に堪えず私の今日全くの喜劇半生を日米問題に捧げ戦時中は憲兵の取り調べ今度は追放という有様戦時中からの出版社インフレの波に沈まず検閲は厳重ながら時勢を論じなければ寛大旧稿を整理の上随筆集の出版は如何				
74	渡瀬良雄書簡	渡瀬良雄		昭和26年9月19日		豚児儀御尊家の花園を手伝うこと光荣				
75	山室軍平書簡	山室軍平		昭和2年8月16日		中央融和事業協会合同に関する挨拶				
76	山浦貫一書簡	山浦貫一		〔昭和〕		地上の「女」大した文章と感歎す				
77	安川敬一郎書簡	安川敬一郎	進藤喜平太	昭和7年6月6日		朝鮮鉄鋼の件これまで聞き及びし申すべからずものの如し兄弟坑山に來り兩三日後御書面相示御了知下被度				
78	吉田絃二郎書簡	吉田絃二郎		昭和3年10月7日		信愛学院落成式欠席お詫び				
79	吉川英治書簡	吉川英治		昭和26年4月17日		有馬家文書に就き御垂教賜わり御礼				
80	吉植庄亮書簡[...]	吉植庄亮								
80-1	吉植庄亮書簡	吉植庄亮		昭和15年9月17日		農民農村代表を是非国政に参与せしむる事は非実現方願い度				
80-2	吉植庄亮書簡	吉植庄亮		昭和15年9月18日		新体制本部長就任歓喜の至り昨日秋田県寒川村入り聖農石川翁の遺跡訪問昭和維新に際して農民を新体制中枢に参画することあつて然るべし				
81	結城豊太郎書簡	結城豊太郎		10月2日		上海昌信病気については大した事無之と存ずるも京子心痛済生会病院川村医学士に見舞旁々診察せしむる事此六日の上海丸にて神戸を出帆				
82	湯河元威書簡	湯河元威		昭和2年12月20日		昨日の記念式御出席御礼				
83	江洪杰書簡	江洪杰		大正11年月		今般岡田三郎助氏弟子張吟秋女史絵画室建築				
84	International des Epizooties書簡	International des Epizooties	日本中央競馬会会長	昭和33年12月13日		訪日中歓待御礼Thomas Dalling (FAO) , R.Vittoz (OIE) 英文書翰				
家族間獄中書翰										
85	有馬貞子書簡[...]	有馬貞子								
85-1	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年1月22日		四通のお便り同時に拝見胸ふさがる思い出来る限りの方法で留守致したく石井光次郎さんを留守中の相談役をお願い快諾を得				
85-2	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年1月23日		御入所以来一か月余神経痛おいたわしく敗戦という結果をいらだたく思う手紙差入れ中々許されず				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
85-3	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年2月4日		第二回目のお手紙拝見義ちゃん面会にてお元気の様子伺い安心漢字と片カナの手紙で書くのは閉口申し越しの諸方面の方々へは遺憾なく手配済み石井・豊橋も立候補する様子				
85-4	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年2月6日		本日二月六日は四三回目の記念日別々に此日を迎えること悲運				
85-5	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年2月24日		神経痛お気の毒指令部の指令により文化協会は改組か解散になる見込み浮世は金融緊急令で混乱財産税が定まった後此の家を処分することになるか				
85-6	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年3月7日		昨日ご入所以来三か月振りに逢えて嬉しく一安心本日一二信検閲の都合で遅れて入手				
85-7	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年3月17日		第一三信拝見ご返事の行き違いで大変ご立腹の由松前・井川・賀川諸氏に相談意見を聞き行動近日弁護士との面会が許可される予定				
85-8	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年3月27日		昨二四日近藤・高橋両弁護士より報告を聞く近藤さんは岸さんの弁護士高橋さんは三輪さんの助手四月上旬起訴発表とか落ち着かぬ気持ち婦人参政権を得て毎日ラジオの演説を聞き女は婦人候補者に投票するのが一番との放送を聞く				
85-9	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年4月4日		選挙も迫り情報は吉と出る松前氏東海大学に専心されたく辞表提出するが許可されず困惑の様子弁護士と証人との打合せいたしたく松前・井川・賀川氏のほか証人に願う方々ご希望如何義ちゃんは武者・志賀・加藤三氏を推薦				
85-10	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年4月23日		二〇日頃起訴又は釈放になるかと色々噂春さんを熱海に見舞う三等でも往復一七円新円では動けず				
85-11	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年4月29日		豊橋も上京家の件相談があり最悪の場合家宝以外の家具類売却することご承知の程				
85-12	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年5月16日		第一七信拝見煙草は中々入手できず万年筆・インクは次に差し入れトルストイ「人生読本」近々お届けの予定				
85-13	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年5月29日		第二三信拝受二四日の面会お元気そうで安心グレルンの注射液と錠剤サム・クライマン弁護士を通じお届け出来る筈興亜同盟の件三輪さんに相談				
85-14	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年6月4日		各務さんの友人で梅津さん弁護士ブレイクニン少佐来宅三輪・近藤・高橋さんとも面談				
85-15	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年6月18日		熱海の春さんを見舞う				
85-16	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年7月10日		春さん一生を病魔と闘い死去二九日葬式遺言状の写し同封				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
85-17	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年8月2日		帝水からお見舞い鮭と缶詰届く皆様の親切に感謝				
85-18	有馬貞子書簡	有馬貞子		昭和21年8月23日		財産税問題は一〇月頃かと思案				
86	有馬頼春書簡[...]	有馬頼春								
86-1	有馬頼春書簡	有馬頼春		昭和20年12月29日		人生四〇年はじめて餅のない正月か一宮の別荘佐々木前東拓総裁が入居				
86-2	有馬頼春書簡	有馬頼春		昭和21年1月7日		三〇日になって餅入手元旦だけ紋服に着替え起床鉄道の制限で熱海も閑散変わって進駐軍で賑わう				
86-3	有馬頼春書簡	有馬頼春		昭和21年1月26日		足利さん二年ぶりに立ち寄る下川は故郷で豊橋の選挙運動を手伝っている模様				
86-4	有馬頼春書簡	有馬頼春		昭和21年2月11日		獄中便拝見喉の痛み近日中に手術				
87	有馬頼寧書簡[...]	有馬頼寧								
87-1	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	家族	昭和20年12月18日		部屋は五六号室二置食事は栄養に配慮あり兵隊は厳格ながら親切アメリカは不正裁判はせめと期待自分は社会運動もやり此の結果は敗戦のお陰で協同組合運動も盛んとなり前半生の努力が報いられたと思う賀川・井川・松前氏が証人になることを望む部落解放問題はマ元帥に喚起したい天皇の身代わりと思うと決心がつく近衛公の自刃の話伝わる公の気持ちは解るが間違いだ公は平和愛好者だったこと強調したい				
87-2	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	家族	昭和20年12月25日		最大の苦闘は煙草煙草さえあれば文句なし調べが始まるが通訳は中国又は朝鮮の人日本語の面で不安マ司令部提出の帝水の事業報告入手希望				
87-3	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和20年12月		15日付の手紙長文の為検閲通らず出せず16日の午後差し入れの風呂敷包み受取家族の面会許可の際貴女が来て欲しい				
87-4	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和20年月		荻窪の家は自分の一生の家と願うが移転も止む得なし辞爵並びに位階勲等返上願ひ度く頼義に伝言を				
87-5	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	家族	昭和21年1月1日		神経痛のため不眠と苦痛拘置所内生活状況				
87-6	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	家族	昭和21年1月8日		神経痛治療の方法アメリカの科学で考えられぬか近衛公の死を聞き和歌数首添え				
87-7	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年1月		第七信岩手出身の堀田吉之助来室大仏次郎「雪崩」面白く読む手紙二五日受け取る秀雄・田中の了解を得て石井光次郎に頼義の相談相手に願いたし				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
87-8	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	家族	昭和21年2月6日		第九信本日手紙入手偶然にも第四十三回の結婚記念日二月四、五日取調べあり二世の気持ち良く話を聞いて呉れたこと感謝誤解や中傷のため罰せられるのは困る日本式遠慮は禁物頼義が私のこと書き指令部に提出したら案外了解されるかも				
87-9	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	家族、貞子	昭和21年2月16日		(家族宛) 第一〇信マッチマッチと明けても暮れてもマッチが欲しい日産の鮎川氏神経衰弱気味で心配(貞子宛) 良い噂嬉しい取調べ二世の好意で私の社会運動のこと書いたもの受け取る結果はともかく読んで呉れるだけでも嬉しい				
87-10	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年2月		二月六日差入品受取マッチに歓声神経痛で入院の申請中弁護のこと宜しく				
87-11	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年2月		第一二信二七日の差入品受け取る『世界』創刊号から差入希望				
87-12	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年3月		第一三信入院手続につき家族の冷たい態度不満検事の調べ一度も無し暗中模索のまま起訴されるのか				
87-13	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年3月		第一四信八日付の手紙三日入手子供を亡くした人の弔慰金島田繁太郎大將が立替えお宅へ一五円届けること前便は境遇のため興奮を詫げる				
87-14	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年3月		第一五信借入金の利払いの件洪田、秀雄らに相談のこと絹のパジャマ差入れ希望				
87-15	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年3月		第一六信何度か頼んだトルストイ「人生読本」と「新体制の原理」未入手頼義の「経営日記」面白く読む				
87-16	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年4月2日		第一七信部屋に一人加わり夜具邪魔睡眠薬飲む				
87-17	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年4月16日		第一八信松岡氏病状相当悪く気の毒木戸君の煙草を分けて貰って露命をつなぐ				
87-18	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年4月		第一九信頼義から手厳しい手紙受取り心で泣く新原の行動に遺憾があれば処分されたし五月に入ったら洋服の入れ替え小説か随筆の差し入れ願う大量の転室があり広田氏と同室				
87-19	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年4月		第二〇信健康状況				
87-20	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年5月		第二一信三〇日の発表をみて一息付く今度の通訳は親身不足				
87-21	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年5月		第二二信武者・志賀・加藤三氏のうち証人に立ってくだされば有り難く				
87-22	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年5月19日		第二三信煙草二〇本の配給があり落ち着く面会の許可が下りないのは何故				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
87-23	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	家族	昭和21年5月19日		釈放の人多しの噂に興奮				
87-24	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年月		第二四信二一、二二日検事の取り調べを受ける静かに時の来るのを待つ				
87-25	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年6月4日		第二五信同室の町氏釈放帰宅あとは秩父宮同期の浦田氏と二人				
87-26	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年6月11日		第二六信仲間がポツポツ釈放されること羨ましく思う頼義の仕事はどうか頼義の仕事の成否が家の運命を支配する				
87-27	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年6月		第二八信三輪さんが見えると心待ちしたが見えず手紙書く二一日頼義来所暑さに閉口				
87-28	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年7月22日		第三二信八月一日から差入れの規定が変わりこちらから要求したもの以外は差入れ出来ず				
87-29	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年8月1日		第三三信神経痛の痛み日本の特有の気候が原因のため外国の医師には見当つかぬ様子				
87-30	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年8月6日		第三四信近頃釈放者が殆どなく不安古い小説を差入れ願いたく				
87-31	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年8月13日		第三五信三輪氏来訪私の書物も読んで貰って気が楽になる頼義の仕事の件心配まだ頼義の代になったわけではない取返しのつかぬ様注意				
87-32	有馬頼寧書簡	有馬頼寧		昭和21年月		私の病気の件牧野伯に頼み菊友会側から甘露寺さんに宜しく依頼願いたし				
87-33	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年月		皆の写真和歌の本差入れ願う				
87-34	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年月		差入れ品要求書短歌一五首				
87-35	有馬頼寧書簡	有馬頼寧	貞子	昭和21年月27日		賀川・井川・松前の三氏には厚情謝礼				
88	有馬頼義書簡[...]	有馬頼義								
88-1	有馬頼義書簡	有馬頼義		昭和20年12月		誕生日祝辞				
88-2	有馬頼義書簡	有馬頼義		昭和21年1月15日		農村文化研究所予定通り進行雑誌『大地』を発行予定事務所を邸内に置き経済的に自立子供に信頼を				
88-3	有馬頼義書簡	有馬頼義		昭和21年2月16日		ご意見伺いたく一農文協につき指令部から解散のすすめ三月の総会で会長・理事の総退陣の気運研究所独立するしか方法なし一学農連盟の改組の件父上から西沢氏にご意見願度研究所の顧問には加藤武雄・藤森成吉他				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
88-4	有馬頼義書簡	有馬頼義		昭和21年3月15日		母上宛第一三信に対して抗議する父上入所以来母上の苦勞を知れば母に対しこれ以上の失礼は許せず新原の言だけ信用されるのか以後私は手紙を止める無実を祈る				
89	足利惇氏書簡[...]	足利惇氏								
89-1	足利惇氏書簡	足利惇氏		昭和20年12月30日		拘留見舞				
89-2	足利惇氏書簡	足利惇氏		昭和20年12月		誕生日祝辞				
89-3	足利惇氏書簡	足利惇氏		昭和21年1月3日		年賀				
89-4	足利惇氏書簡	足利惇氏		昭和21年6月18日		東海大学設立認可の件				
90	足利澄子書簡[...]	足利澄子								
90-1	足利澄子書簡	足利澄子		昭和21年〔1月カ〕 15日		家内近況				
90-2	足利澄子書簡	足利澄子		昭和21年4月8日		久方振りて帰洛夫惇氏東海大学新設の文科を一任され上京中				
90-3	足利澄子書簡	足利澄子		昭和21年6月3日		家内近況				
91	亀井正子書簡	亀井正子		昭和21年5月9日		家内近況				
92	亀井茲基書簡[...]	亀井茲基								
92-1	亀井茲基書簡	亀井茲基		昭和21年5月4日		近況				
92-2	亀井茲基書簡	亀井茲基		昭和21年月22日		近況				
93	斎藤斉書簡[...]	斎藤斉								
93-1	斎藤斉書簡	斎藤斉		昭和21年1月18日		家内近況				
93-2	斎藤斉・保科正昭書簡	斎藤斉・保科正昭		昭和21年1月30日		寄書				
93-3	斎藤斉書簡	斎藤斉		昭和21年4月		家内近況				
93-4	斎藤斉書簡	斎藤斉		昭和21年5月7日		家内近況				
93-5	斎藤斉書簡	斎藤斉		昭和21年5月		家内近況				
93-6	斎藤斉書簡	斎藤斉		昭和21年6月6日		昨日弟の友人で梅津氏の弁護士ブレックニ少佐に面会				
93-7	斎藤斉書簡	斎藤斉		昭和21年6月7日		前便でお知らせのようにブレックニ少佐何かと便宜あるものと思う				
93-8	斎藤斉書簡	斎藤斉		昭和21年6月28日		頼春氏逝去弔意				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
93-9	斎藤斉書簡	斎藤斉		昭和21年8月1日		昨日委員長報告を無事終了				
93-10	斎藤斉書簡	斎藤斉		昭和21年月		家内近況				
94	斎藤百子書簡[...]	斎藤百子								
94-1	斎藤百子書簡	斎藤百子		昭和21年1月15日		年賀				
94-2	斎藤百子書簡	斎藤百子		昭和21年2月7日		家内近況				
94-3	斎藤百子書簡	斎藤百子		昭和21年6月30日		頼春氏逝去弔意				
95	斎藤静子書簡	斎藤静子		昭和21年7月10日		家内近況				
96	渋田健造書簡[...]	渋田健造								
96-1	渋田健造書簡	渋田健造		昭和21年1月22日		有馬家内事情報告				
96-2	渋田健造書簡	渋田健造		昭和21年3月19日		有馬家財産管理・封鎖預金等事務報告				
96-3	渋田健造書簡	渋田健造		昭和21年4月22日		有馬家臨時財産申告等家内事情報告				
96-4	渋田健造書簡	渋田健造		昭和21年7月26日		有馬家財産凍結の件報告				
96-5	渋田健造書簡	渋田健造		昭和21年8月11日		徳山へ送金の件財産税・封鎖預金等の概略報告				
96-6	渋田健造書簡	渋田健造		昭和21年8月12日		徳山の件保険金支払いの件等近況報告				
放送・著作等感想類書翰										
97	〔放送・著作等感想類書翰〕[...]									
97-1	〔放送・著作等感想類書翰〕			昭和14年10月	23通	「時局と農村」講演放送に関する感想書翰				
97-2	〔放送・著作等感想類書翰〕			昭和14年11月	6通	「村の栄」著作礼状				
97-3	〔放送・著作等感想類書翰〕			昭和15年1月	6通	「国民生活の種取相」講演放送に関する感想書翰				
97-4	〔放送・著作等感想類書翰〕			昭和19年5月	11通	「立場を替えて」講演放送に関する感想書翰				
97-5	〔放送・著作等感想類書翰〕			昭和26年10月	2通	「珍姓奇姓」読者の声				

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
97-6	〔放送・著作等感想類書翰〕			昭和26年10月	1通	「子宝禍」（『改造』掲載）に関する感想書翰				
97	書類の部									
98	日記[...]									
98-1	日記			大正2年1月4日～9月9日	1冊			ペン書		
98-2	日記			大正8年1月1日～12月31日	1冊			ペン書		
98-3	日記			大正9年1月1日～12月31日	1冊			ペン書		
98-4	日記			大正10年1月1日～8月7日	1冊			ペン書		
98-5	日記			大正13年1月1日～12月19日	1冊			ペン書		
98-6	日記			大正15年1月1日～1月12日	1冊			ペン書		
98-7	日記			昭和3年1月1日～3月22日	1冊			ペン書		
98-8	日記			昭和10年1月1日～昭和12年12月31日	1冊			ペン書		
98-9	日記			昭和13年1月1日～昭和15年12月31日	1冊			ペン書		
98-10	日記			昭和16年1月1日～昭和18年12月31日	1冊			ペン書		
98-11	日記			昭和19年1月1日～12月31日	1冊			ペン書		
98-12	日記			昭和20年3月1日～12月11日・昭和21年9月1日～9月9日	1冊			ペン書		
98-13	日記			昭和26年1月1日～12月31日	1冊			ペン書		



## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
98-14	日記			昭和27年1月1日～ 12月31日	1冊			ペン書		
98-15	日記			昭和28年1月1日～昭 和30年12月31日	1冊			ペン書		
98-16	日記			昭和31年1月1日～ 12月31日・昭和32 年1月1日～1月5日	1冊			ペン書		
98-17	日記			昭和2年1月1日～12 月31日	1冊			コピー		
98-18	巢鴨獄中日記			昭和20年12月1日～ 昭和21年8月31日	238 枚			ペン書	原稿用紙	
99	巢鴨獄中歌日記[...]									
99-1	千帆巢鴨歌日記			昭和20年12月12日 ～昭和21年8月31日	1冊			ペン書		
99-2	千帆巢鴨歌日記			昭和20年12月12日 ～昭和21年8月31日	1冊			謄写版		
100	所感・意見書									
100-1	所感日誌自由日記			昭和11年～14年	1冊			ペン書		
100-1(細目)	昭和11年1月 年頭所感・ 肉体と精神・賞罰につい て・我子のために・男女 の問題・金の相談・文章 と演説			昭和11年1月						
100-1(細目)	2月二・二六事件4月日本 の将来と無産政党・皇室 をわずらはし奉ること勿 れ・貴族院改革問題			昭和11年2月						
100-1(細目)	7月日比谷の草取り事件			昭和11年7月						
100-1(細目)	9月マラソンの制覇と朝 鮮の水害			昭和11年9月						
100-1(細目)	10月政局と近衛公			昭和11年10月						

有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
100-1(細目)	昭和12年2月所謂新党運動について・林内閣成立と新党の関係			昭和12年2月						
100-1(細目)	9月入閣について・閣僚の選考について			昭和12年9月						
100-1(細目)	12月内閣改造問題・内閣総辞職の進言と集議制度			昭和12年12月						
100-1(細目)	昭和13年1月重大声明の発表について			昭和13年1月						
100-1(細目)	9月妻の病気・改造とその後の近衛内閣・宇垣外相の辞職をめぐって			昭和13年9月						
100-1(細目)	10月農民文学作家との懇談会			昭和13年10月						
100-1(細目)	11月新党問題			昭和13年11月						
100-1(細目)	12月最高最低米価の決定について			昭和13年12月						
100-1(細目)	昭和14年1月内閣更迭			昭和14年1月						
100-2	近衛文麿宛意見書草稿			昭和17年7月17日	8枚	我が国の方針は親英米にもあらず親独伊にもあらず一度結びたる同盟の誓い信義を守るべし ソ連に対し何らかの行動に出る事中立条約に違反するとの非難あると苟も同盟国の国利を及ぼすが如きはその行動当然なるべし 対米関係重大の折交渉次第で一時的衝突を避くるの挙も止む得なし 北進南進は世界情勢により充分考慮されたし 今回の組閣反対勢力の入閣は必要なし 内相の人選・翼賛会陣容に特段の御留意を 今日の政治が国民と遊離しつつあるとの非難あり其の原因民心の知らざる閣僚にあり 貴下国民的人気高まりつつありこの際指導的政治を望み度		ペン書	便箋	
101	講演・挨拶草稿及び覚書									
101-1	地方官会議挨拶メモ			昭和13年5月7日	3枚	翼賛会事業内容会と政府との関係会と議会との関係		ペン書	用箋	
101-2	ラジオの夕べ講演覚書			昭和15年1月8日	2枚	国民生活の種々相		ペン書	原稿用紙	
101-3	優越感について			昭和15年3月14日	2枚	部落解放運動に関連して 於日比谷公会堂		ペン書	原稿用紙	

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
101-4	中央産業組合大会挨拶			昭和15年〔3月カ〕	31枚	農村荒廃を 방지生産力増強を強調		ペン書	産業組合用紙	
101-5	時局講演草稿			昭和15年8月	4綴	時局に処する農村問題		ペン書	産業組合用紙	
101-6	時局講演			昭和15年9月12日	7枚			ペン書	便箋	於軍人会館
101-7	国民大会演説草稿			昭和15年10月13日	1綴	高度国防国家の建設		ペン書	用箋	
101-8	時局講演放送			昭和15年10月30日	1綴	新体制と旧体制内閣情報部主催		ペン書	用箋	
101-9	新体制運動講演草稿			昭和15年〔10月カ〕	6枚	大政翼賛について		ペン書	便箋	
101-10	新体制運動講演草稿			昭和15年〔10月カ〕	20枚			ペン書	便箋	
101-11	第一回中央協力会議開催について挨拶草稿			昭和15年12月16日	20枚			ペン書	便箋	
101-12	技術翼賛講演会覚え			昭和16年2月25日	2枚	国防国家建設と政治体制		ペン書	翼賛会用紙	
101-13	隣組常会強化の夕べ講演要旨			昭和16年2月26日	4枚				翼賛会用紙	
101-14	都下大学専門学校卒業生壮行会演説要旨			昭和16年3月8日	2綴	人間一生の貸借関係について付学生数等参考メモ		ペン書	翼賛会用紙	
101-15	大政翼賛会の歌発表会挨拶			昭和16年3月15日	2枚			ペン書	翼賛会用紙	
101-16	大政翼賛会への告別の辞メモ			昭和16年3月28日	2枚	事務総長退任挨拶		ペン書	便箋	
101-17	「瑞穂踊り」「国の華」発表会挨拶			昭和16年6月2日	2枚			ペン書		
101-18	産業組合同志会講演覚書			昭和16年8月13日	5枚	産業組合の進むべき方途について		ペン書	便箋	
101-19	東京高等農林学校講演覚書			昭和16年11月12日	5枚	現下の農林問題		ペン書	便箋	
101-20	全漁連講演会覚書			昭和16年11月28日	4枚			ペン書	用箋	

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
101-21	朝日奉公賞加藤完治推薦の辞			昭和17年1月20日	8枚		付朝日賞プログラム及び満蒙開拓義勇軍訓練所長加藤完治履歴書	謄写版		
101-22	経済道義宣揚運動講演覚書			昭和17年2月7日	3枚			ペン書	用箋	
101-23	厚生会・翼賛会農村婦人指導者講習会講演要旨メモ			昭和17年2月11日	3枚	大東亜共栄圏における日本農業婦人としての自覚		ペン書	用箋	於千葉県君津郡滑河町
101-24	みずほ劇団公演挨拶			昭和21年2月21日	1枚			ペン書	便箋	
101-25	時局講演会講演会要旨			昭和17年2月27日	3枚	食糧問題と農村文化		ペン書	産業組合作用紙	於茨城県江戸崎農業学校
101-26	同和奉公会講演メモ			昭和17年3月14日	2枚	大国民の心		ペン書	用箋	於大阪
101-27	産業組合愛知支部講演メモ			昭和17年3月15日	1枚	産業組合運動と時代の流れ		ペン書	便箋	
101-28	安城町産業組合講演メモ			昭和17年3月15日	1枚	農村青年の心構え		ペン書	便箋	
101-29	戦国国民栄養講座講演要旨			昭和17年3月23日	1綴	家庭国民中央会主催		ペン書		
101-30	大東亜科学経済研究会発会式挨拶要旨			昭和17年3月29日	2枚		付同研究会趣意書及び東京支局懇談会名簿	ペン書	便箋	
101-31	昭和一七年四月総選挙応援演説要旨			昭和17年4月	5枚			ペン書	便箋	
101-32	杉並区教育会総会講演要旨			昭和17年6月20日	6枚			ペン書	便箋	
101-33	みずほ劇団東京公演挨拶要旨			昭和17年6月20日	6枚			ペン書	便箋	
101-34	「村は山から」「みたから音頭」発表会挨拶			昭和17年6月25日	6枚			ペン書	用箋	農村文化協会主催
101-35	板橋区講演会講演メモ			昭和17年7月25日	1枚			ペン書	便箋	

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
101-36	文化実験村ラジオ放送原稿			昭和17年8月14日	2枚	農山村の文化活動について		ペン書	原稿用紙	
101-37	真木和泉例会講演メモ			昭和17年8月20日	1枚	久留米水天宮真木和泉について		ペン書	便箋	
101-38	時局講演メモ			昭和17年8月21日	1枚	増産について		ペン書	便箋	於八王子
101-39	南方科学技術講座開講の辞			昭和17年9月1日	12枚	大東亜共栄圏における科学技術論		ペン書	用箋	
101-40	大阪府堺市・大崎浜井工場における演説メモ			昭和17年9月24日	2点			ペン書	便箋	
101-41	農村婦人指導者講習会講演要旨			昭和17年10月13日	1枚			ペン書	便箋	学農連主催
101-42	東宮鉄夫大佐記念演劇公演会講演要旨			昭和17年10月21日	6枚	満州開拓の功労者東宮大佐		ペン書	用箋	
101-43	岐阜県恵那郡岩村町、中津町における講演メモ			昭和17年10月31日、11月1日	1枚			ペン書	便箋	
101-44	綿業クラブ及び学士会クラブ講演メモ			昭和17年11月12、13日	2枚			ペン書	便箋	
101-45	長野県佐久農学校、三水北部農学校における講演メモ			昭和17年11月7、8日	1枚			ペン書	便箋	
101-46	長野県東筑摩郡農学校における講演メモ			昭和17年11月22日	1枚			ペン書	便箋	
101-47	海軍火薬廠における講演メモ			昭和17年11月28日	2枚			ペン書	用箋	
101-48	牟田工場講演覚書			昭和17年12月8日	2枚	銃後戦線と青年		ペン書	用箋	
101-49	農業教育専門学校講演メモ			昭和17年12月9日	1枚			ペン書	用箋	
101-50	宮本武之輔追憶講演会講演要旨			昭和17年12月21日	2枚	偉大なる技術者について		ペン書	用箋	
101-51	東京市会選挙応援演説要旨			〔昭和17年カ〕	5枚			ペン書	用箋	
101-52	海外同胞訓練所における講演要旨			昭和18年2月2日	3枚	邦人の海外進出・宗教と文化		ペン書	便箋	

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
101-53	愛知県蒲郡農学校校友会における講演要旨			昭和18年2月7日	4枚			ペン書	便箋	
101-54	帝国水産統制株式会社社員初訓示要旨			昭和18年4月16日	6枚			ペン書	原稿用紙	
101-55	東亜開発協会発会式挨拶要旨			昭和18年4月	6枚			ペン書	原稿用紙	
101-56	熊本県東亜開発協会支部発会式挨拶要旨			昭和18年4月24日	1枚			ペン書	便箋	
101-57	帝国水産技術者講習会講演覚書及び講習生名簿			昭和18年5月13日	3枚			ペン書	用箋	
101-58	帝国水産統制株式会社披露宴挨拶覚書			昭和18年5月26日	3枚			ペン書	便箋	
101-59	杉並区青年学校、国民学校教員集会講演メモ			昭和18年5月29日	1枚			ペン書	便箋	
101-60	台湾放送局における放送要旨			昭和18年6月11日	2枚	大東亜戦争と台湾の位置		ペン書	便箋	
101-61	台湾技術協力会講演メモ			昭和18年6月12日	2枚	銃後戦線上の諸問題		ペン書	便箋	
101-62	盛岡高等農林学校における講演要旨			昭和18年7月9日	2枚			ペン書	便箋	
101-63	千葉県文化施設実験村における講演要旨			昭和18年7月20日	1枚			ペン書	便箋	
101-64	時局講演覚書			昭和18年8月2日	1綴			ペン書	用箋	於山口県宇部市
101-65	全国学農連盟水産講習会講義要旨			昭和18年11月16日	3枚	我が国水産業の現状・水産行政の一考察		ペン書	用箋	
101-66	水産関係放送座談会草稿			昭和19年4月13日	7枚			ペン書	原稿用紙	
101-67	東京農業大学記念日講演要旨			昭和19年5月18日	4枚	創意工夫について		ペン書	便箋	
101-68	南洋水産協会講演要旨			昭和19年5月27日	6枚	戦争と水害について		ペン書	用箋	
101-69	帝水隣組挨拶メモ			昭和19年6月24日	1枚			ペン書	便箋	
101-70	農文協における挨拶要旨			昭和19年7月1日	1枚			ペン書	帝水用箋	

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
101-71	静岡県伊東高等女学校講演メモ			昭和19年7月6日	1枚	人として女として		ペン書	便箋	
101-72	東京都青年師範学校講演覚書			昭和19年12月3日	1枚			ペン書	便箋	
101-73	技術者協会講演会演説草稿及び原稿			〔昭和19年カ〕	2綴	科学技術の戦力化と政治の科学化		ペン書	便箋	於軍人会館
101-74	食糧生産と農村婦人の力新聞談話要旨			〔昭和19年カ〕	8枚			ペン書	便箋	
101-75	南方派遣員歓迎会挨拶メモ南方派遣員名簿及び勤務地一覧				3点					
102	著作原稿類戦前期									
102-1	農民文学への関心草稿				4枚			ペン書	罫紙	「農政」昭和14年2月号に掲載
102-2	講演について			昭和17年12月	4枚			ペン書	罫紙	「有声録」(昭和18年刊)に掲載
102-3	日本水産業の現状			〔昭和17年カ〕	8枚			ペン書	帝水用紙	
102-4	日本に於ける水産の現在と将来について			〔昭和17年カ〕	1冊			ペン書	ノート	
102-5	生活の随筆			昭和18年〔10月カ〕	9枚			ペン書	原稿用紙	
102-6	科学技術と文芸について				11枚	巻頭言大東亜戦争三周年を迎えて		ペン書	原稿用紙	「技術評論」昭和19年1月号に掲載
102-7	技術者の立場から			昭和19年4月	6枚			ペン書	原稿用紙	
102-8	「見・聞・読」									
102-8-イ	其の1～10「農村文化」連載記事切り抜き			昭和18年	一括					
102-8-ロ	其の16～19原稿			昭和19年	5綴			ペン書	原稿用紙	

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
102-9	貴族院議長をめぐって			〔昭和19年カ〕	8枚			ペン書	原稿用紙	
102-10	生活は生産である―戦時下の食糧問題-				8枚			ペン書	原稿用紙	
102-11	老鶏の生む卵は古いか				8枚			ペン書	原稿用紙	
102-12	広汎化する雑農現象メモ				3枚			ペン書	便箋	
102-13	魚籠其の三				2枚			ペン書	原稿用紙	
102-14	草籠其の六				11枚			ペン書	原稿用紙	
102-15	草籠其の八				14枚			ペン書	原稿用紙	
102-16	心境を語る				9枚			ペン書	文春用紙	
102-17	神経痛と注射、医者の不養生				4枚			ペン書	便箋	
102-18	一つの思い出				6枚			ペン書	原稿用紙	
102-19	人の心				3枚			ペン書	罫紙	
103	著作原稿類戦後期									
103-1	巢鳴と戯歌二一六首		文芸春秋編集部	昭和20年12月12日 ～昭和21年8月29日	1綴			ペン書	罫紙	
103-2	金・頭・女―政界思出咄―				3綴			ペン書		「地上」昭和二五年三月-五月号に掲載
103-3	税金完納費について六老生			〔昭和25年カ〕	2枚			ペン書	原稿用紙	
103-4	子宝禍			昭和26年						
103-4-イ	子宝禍				10枚			ペン書	原稿用紙	「改造」昭和二六年九月号に掲載の一部



## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
103-4- □	執筆参考資料				8綴	太平記他抜書		ペン書		
103-5	荻窪カイ談			昭和27年	8枚			ペン書	原稿用紙	木舎幾三郎 (政界往来社)宛封書入り
103-6	赤穂事件雑稿草稿			[昭和27年カ]	10綴			ペン書	罫紙	
103-7	赤穂事件雑稿其の1-5原稿			昭和27年	5綴			ペン書	原稿用紙	
103-8	人の印象を語る一三編			昭和27年	13綴			ペン書	原稿用紙	「人物往来」昭和二七年六、七月号に一部掲載
103-9	これは愚案か				5枚			ペン書	原稿用紙	「経営実務」昭和二八年三月号に掲載
103-10	農民を考える考える農民				11枚			ペン書	原稿用紙	「農民の友」昭和二八年五月号巻頭言掲載草稿
103-11	夢のような話				3枚			ペン書	原稿用紙	「農業日本」昭和二八年九月号掲載
103-12	序にかえて				4枚			ペン書	原稿用紙	「翼賛国民運動史」序文昭和二八年
103-13	七〇年の回想			昭和28年				ペン書	原稿用紙	朱筆入り
103-13- イ	第1章				1綴					

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
103-13-口	第2章				1綴					
103-13-八	第3章				1綴					
103-13-二	第4章				2綴					
103-13-ホ	第5章				2綴					
103-13-へ	第6章				1綴					
103-13-ト	第7章				1綴					
103-13-チ	第8章				1綴					
103-14	宣伝広告・農協に義倉を			[昭和28年カ]	9枚			ペン書	原稿用紙	
103-15	随想政界のれん街12編				12綴	政界のれん街・政治家とスポーツ・死刑廃止について・反省を要するものは誰か・新貴族の登場・遺言状・必ず隣あり・小売り商と百貨店・競馬界入門記・競馬界入門記(続)・大名の末裔・人間と動物		ペン書	原稿用紙	
103-16	農民党是非				2枚			ペン書	原稿用紙	
103-17	夢に描く農民党-農民政治力結集の問題点一				4枚			ペン書	「農民」原稿用紙	
103-18	自伝執筆メモ年譜草稿等				1袋					
103-19	創作類メモ				1袋					
103-20	著作目録覚え				3綴					
103-21	草稿・覚書等断片				一括					
103-22	著作原稿				32枚			ペン書	原稿用紙	
104	著作所収雑誌・新聞記事									
104-1	「同愛」第1号-第10号	同愛会本部			合綴1冊					

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
104-1-1	第1号 愛に満てる世を望みて			大正11年2月						
104-1-2	第2号 総ての人の握手			大正11年8月						
104-1-3	第3号・4号 杖の後(1)(2)			大正11年12月、大正12年4月						
104-1-4	第6号 同愛会の趣旨について			大正12年8月						
104-1-5	第7号 大震災に際会して			大正12年11月						
104-1-6	第8号 第四年を迎ふるに際して			大正13年1月						
104-1-7	第9号 都会を呪ふ			大正13年2月						
104-1-8	第10号 華族階級と政治的特権			大正13年3月						
104-2	「アサヒグラフ」連作小説 平民的貴公子第1-19回記事切抜き			大正15年10月～12月	合綴 1冊	第二回憎悪から愛着へ（有馬頼寧）大正15年10月27日				
104-3	「日本評論」14巻3号	日本評論新社		昭和14年3月	1冊	息子の旅				
104-4	「戦時下の国民生活」	朝日新聞社		昭和13年9月	1冊	人的資源を護れ所収				
104-5	「現代」14巻2号、21巻1号	大日本雄弁会講談社			2冊	有馬農林大臣縦横談昭和一三年一一月号、文学と政治昭和一五年新年号				
104-6	「農政」1巻2号-7号	中央農村協議会			7冊					
104-6-1	無雷庵雑記農民文学への関心			昭和14年2月						
104-6-2	無雷庵雑記朝鮮海峡のトンネル			昭和14年3月						
104-6-3	無雷庵雑記農民の体位と栄養			昭和14年4月						
104-6-4	無雷庵雑記都市計画より国土計画へ			昭和14年5月						
104-6-5	無雷庵雑記土を侮るものは悔ゆべし			昭和14年6月						

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
104-6-6	無雷庵雑記都人よ土に親しめ			昭和14年7月						
104-7	「産業組合」412号-418号	産業組合中央会		明治33年1月0日						
104-7-1	理想を目指して 昭和15年2月号			昭和15年2月						
104-7-2	保険経営と共済制度 昭和15年3月号			昭和15年3月						
104-7-3	事業と精神 昭和15年4月号			昭和15年4月						
104-7-4	昭和15年5月号			昭和15年5月						
104-7-5	何を学ぶべきか 昭和15年6月号			昭和15年6月						
104-7-6	新政治体制と産業組合 昭和15年7月号			昭和15年7月						
104-7-7	岐路に立つ 昭和15年8月号			昭和15年8月						
104-8	「東京と福岡」切抜き	東京と福岡社			2枚					
104-8-1	東京から久留米へ			昭和26年5月1日						
104-8-2	同郷可相親事			昭和26年12月10日						
104-9	「図書新聞」切抜き			昭和27年6月23日	2枚	「近衛文麿」矢部貞治著（弘文堂刊）書評				
104-10	「日曜新聞」切抜き	日曜新聞社		昭和27年6月27日	1枚	日曜随想政治と金				
104-11	「日本農業新聞」			昭和27年10月15日	1部	随想協同組合の全国大会に寄す				
104-12	「農林金融」5巻2号			昭和28年	1冊	農地解放物語				新年号
104-13	「会報」	農林中央金庫旧友会		昭和28年	1部	随筆夢				新年号
104-14	「東信協」	東京信用金庫		昭和28年1月	1冊	銀行と商店街				
104-15	「信用金庫」1巻7号			昭和28年1月	1冊	随筆学生と金融				
104-16	随筆類記事切抜き				16点					

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
104-16-1	選挙と姓名			昭和28年5月21日						「農民新聞」
104-16-2	再建途上の日本と農協との類似点			昭和28年5月						「農業協同組合」
104-16-3	質について			昭和28年5月						「協同金融」
104-16-4	友をもつなら医者と弁護士			昭和28年6月						「地上」
104-16-5	道を探ねて			昭和28年6月、7月						「官技懇ユース」
104-16-6	農協の政治活動			昭和28年8月						「経営実務」
104-16-7	夢のような話			昭和28年9月						「農業日本」
104-16-8	巣鴨の恩恵			昭和28年9月						「農村」
104-16-9	自由党こそ幕府的存在か			昭和28年11月						「地上」
104-16-10	義倉			昭和28年11月						「地上」
104-16-11	正月を迎えて			昭和29年1月1日						「国民の新聞」
104-16-12	新春趣味漫話			昭和29年1月5日						「夕刊フクニチ」
104-16-13	異境の空に			昭和29年3月						「家の光」
104-16-14	頭の働き			昭和29年4月						「青淵」
104-16-15	老人独言			昭和29年11月1日						「農業神奈川」
105	著作単行書									

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
105-1	蛙の声	日本教育者協会		大正11年11月	1冊					
105-2	議政壇上の叫び-有馬頼寧氏演説集-	一七日会本部		昭和3年6月	1冊					第50・51・52議会（大正13-15年）
105-3	戦時下農村と革新政治	農村研究社		昭和13年7月	1冊					
105-4	農人形	岡倉書房		昭和13年12月	1冊					
105-5	土を語る	砂子屋書房		昭和14年2月	1冊					
105-6	有声録	多摩書房		昭和18年3月	1冊					
105-7	銃後青年戦士に想う	農山漁村文化協会		昭和18年7月	1冊					
105-8	花売爺	全国農業出版		昭和28年8月	1冊					
105-9	七〇年の回顧	創元社		昭和28年12月	1冊		同刊行会趣意書及び内容パンフレット			
106	有馬頼寧関係記事									
106-1	有馬頼寧関係記事切抜									
106-1-1	ひきつづき追放中			昭和26年8月30日	1枚					「サン写真新聞」
106-1-2	近衛と有馬	大宅壮一		昭和26年7月29日	1枚					「東京日日新聞」
106-1-3	花売り殿様			昭和25年11月20日	1枚					「毎日グラフ」
106-1-4	殿様有馬頼寧氏大いに語る			昭和27年8月5日	1枚					「夕刊フクニチ」
106-2	轍の跡-頼寧幼年時代一	おつやさん述			28枚				原稿用紙	
107	辞令・叙勲・叙位									
107-1	叙勲（三等瑞宝章）	賞勲局総裁下条康磨	有馬頼寧	昭和9年4月29日	1通					

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
107-2	辞令（任農林大臣）	内閣総理大臣近衛文麿	有馬頼寧	昭和12年6月4日	1通					
107-3	叙位（叙従三位）	宮内大臣松平恒雄	有馬頼寧	昭和12年6月15日	1通					
107-4	辞令（免農林大臣）	内閣総理大臣平沼騏一郎	有馬頼寧	昭和14年1月5日	1通					
107-5	叙位、叙勲 [...]			昭和32年1月9日						
107-5-1	叙位（叙正三位）	内閣総理大臣石橋湛山	有馬頼寧	昭和32年1月9日	1通					
107-5-2	叙勲（授勲一等瑞宝章）	内閣	有馬頼寧	昭和32年1月9日	1通					
107-6	叙位（追陞位一級）	内閣	有馬頼寧	昭和32年1月14日	1通					
108	通知書類									
108-1	御下賜品通知	百武三郎侍従長	有馬頼寧	昭和13年6月7日	1通					
108-2	御下賜品通知	百武三郎侍従長	有馬頼寧	昭和13年7月19日	1通	鮎30尾				
108-3	産業組合中央金庫特別融通損失審査会委員手当の件	農林省		昭和14年12月26日	1枚					
109	時局関係書類									
109-1	時局に対する国民の覚悟 近衛総理演説			昭和12年9月11日	7枚	国民再編成についての山崎靖純の意見他メモ			原稿用紙	
109-2	満州農業移民入植図200分の一	満州拓殖委員会事務局		昭和13年3月10日	1枚					
109-3	我国の戦時経済と其の将来「新日本同盟会報」	高橋亀吉		昭和13年4月	1部					
109-4	フィラデルフィヤ会議関係書類			昭和15年2月27日-29日						

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
109-4-1	賀川豊彦電文「太平洋平和の危機を訴える」	賀川豊彦	スタンレー・ジョーンズ他		1綴			タイプ印刷		和・英文
109-4-2	デューレス他電報訳文	デューレス他	賀川豊彦		1枚	貴下の提案に日本政府保証ありや		タイプ印刷		
109-4-3	東亜問題解決策要綱				1綴			タイプ印刷		和・英文
109-5	戦時食糧品特に青果物配給統制に関する陳情書	神戸海陸物産問屋業連合会	神戸市議会	昭和16年12月	1綴			活版		
109-6	第八回農山村漁村指導者修練講習会時間表	全国学農連盟		昭和17年3月21日	1枚			活版		
109-7	戦時国民栄養講座趣旨書	家庭国民食中央会		昭和17年3月23日	1枚			活版		
109-8	橋本欣五郎意見書	橋本欣五郎	東条首相	昭和19年4月	15枚	国家の性格は生産統帥国家たることこの一点に集結するもの即ち我が国の軍力なり		ペン書	原稿用紙	
109-9	食糧関係者懇談会資料									
109-9-1	総理大臣招待懇談会名簿			昭和19年10月20日	1枚			謄写版		
109-9-2	水産食糧の生産並びに集荷配給機構整備案			昭和19年7月1日	1綴			タイプ印刷		
109-9-3	水産労務対策中央水産業会				1綴			タイプ印刷		
109-9-4	水産行政将来の対策				1綴			ペン書		
109-10	農村労力問題と勤労奉仕について				4枚			ペン書		
109-11	大東亜戦完勝の方途時事同盟案				1枚			ペン書		
109-12	ソ連邦近状報告			1943年	1綴			謄写版		
109-13	時局に関する記事				1綴			筆写		
109-14	覚書該当者としての指定の解除に関する件	内閣総理大臣		昭和27年3月19日	1枚			活版		



## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
109-15	第三回参議院議員選挙当 選者出身分野別議員名他			昭和28年4月28日	1綴					有馬メモ入 り
109-16	昭和28年衆参両院議員選 挙関係新聞			昭和28年4月	7部					
109-17	新体制準備会議録 第一 回-第六回				6綴			コピー		
110	その他の書類									
110-1	華族令			明治17年7月7日	1綴			活版		
110-2	北原泰作直訴事件新聞記 事切抜			昭和2年11月	1綴					
110-3	平野力三借用書	平野力三	有馬頼 寧	昭和3年6月6日	1通					
110-4	鮎川金次郎選挙違反事件 新聞記事切抜			昭和34年10月	5点					
110-5	近衛公の変節（写）	広瀬健一			2綴				原稿用紙	
110-6	大逆事件関係者書翰集 獄 中消息筆写				1冊	幸徳秋水・菅野須賀・新村忠男・大石誠之助・内田愚童・森近運 平・松尾卯一太・坂本清馬・高木顕明・岡林寅松・飛松与次郎・ 新田融・岡本頼一郎・新村善兵衛・吉川力作・宮下太吉			ノート	
111	名簿・芳名録									
111-1	農民文学懇話会会員名簿			昭和14年4月	1冊					自筆署名入 り
111-2	農林中央金庫新旧役員名 簿			昭和26年12月1日現 在	3綴			謄写版		
111-3	有馬頼寧追放解除祝賀会 芳名録			昭和27年4月17日	1冊					於丸ノ内常 盤家
111-4	献碑志故有馬公遺徳追慕 記念碑建立芳名録	在京久留米同郷 会		昭和32年12月21日	1冊					
111-5	有馬頼寧追悼会芳名録			昭和34年10月	1冊					
112	有馬頼寧著作参考資料類									

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
112-1	「東下りと京下り」参考資料「日本地理大系」他抜書				19綴			ペン書		
112-2	福本日南「元禄快挙録」抜書				一括					
112-3	キュウリー夫人・原随園「戦争と歴史」・小倉清太郎「ボルネオ紀行」抜書				3綴					
112-4	年鑑類時事重要事項抜書			大正13年-昭和16年	一括					
112-5	信用組合資金状況統計			昭和19年3月現在	1枚					
112-6	有馬頼義「随想」抜書				2枚			ペン書	原稿用紙	
112-7	新聞切抜集			昭和18年6、7月	1冊					
112-8	新聞切抜集			昭和27年4月-昭和28年3月	1冊					
112-9	新聞切抜集			昭和28年3月-7月	1冊					
112-10	新聞切抜集			昭和28年8月-12月	1冊					
112-11	新聞切抜集			昭和29年1月-6月	1冊					
113	有馬家関係書類									
113-1	夫婦間二成立シタル契約証書	川北保五郎（契約本人）・有馬すす（被契約人）・有馬まさ（立合人）		明治45年3月5日	1綴			墨書		
113-2	有馬農村問題研究所事務日誌			大正13年6月2日-11月16日	1冊			ペン書		
113-3	桂広太郎婚姻特別調査報告書	人事興信所	有馬家執事	昭和9年9月22日	2枚				罫紙	
113-4	有馬頼義・千代子結婚条件覚え有馬頼寧メモ			〔昭和18年カ〕	1枚			ペン書	罫紙	
113-5	有馬家日記									

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
113-5-イ	有馬家奥日記（小石川）			明治35年9月15日- 明治36年7月14日	1冊			墨書		
113-5-ロ	男爵有馬家日誌			大正4年1月1日-12 月31日	1綴			墨書・ ペン書	罫紙	
113-5-ハ	男爵有馬家日誌			大正15年1月1日-12 月31日	1綴			墨書・ ペン書	罫紙	
113-6	有馬家給料付証（青山）			明治45年10月-大正 5年12月	1冊			墨書		
113-7	有馬家蔵書目録									
113-7-イ	有馬家修史所蔵書目録 巻				1綴			ペン書	伯爵有馬家 修史所用箋	昭和4年調 査・昭和11 年調査
113-7-ロ	有馬家修史所蔵書目録 式				1綴			ペン書	伯爵有馬家 修史所用箋	昭和4年調査 続
113-8	有馬家家範 付家則									
113-8-イ	家範 [...]									
113-8-イ-1	家範 明治13年9月制定			明治13年9月				活版		
113-8-イ-2	家職職務規定他 明治35 年12月12日制定			明治35年12月12日				活版		
113-8-イ-3	服務規定・給与規則 大 正8年2月1日改正			大正8年2月1日	1綴			墨書		
113-8-ロ	家職服務細則				1綴			謄写版		
113-9	伯爵有馬家予算書									
113-9-イ	昭和二年度総決算書			昭和2年度	15 丁1 綴			謄写版		
113-9-ロ	昭和三年度総決算書			昭和3年度	8丁 1綴			謄写版		

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
113-10	昭和九年正月用注文覚え			昭和8年12月	1綴			ペン書	罫紙	
113-11	新年諸飾り諸献立覚え			昭和4年1月改正	1綴			ペン書	罫紙	
113-12	年中行事附写真帖	庶務課			24 丁			墨書	伯爵有馬家用箋	
113-13	有馬記念館運営委員会第六回議事録			昭和年2月12日	1綴	展示品について		謄写版		
113-14	刀を鎌にかえて八十年	久留米開墾八十周年記念事業委員会		昭和33年11月	1冊			謄写版		
113-15	伯爵有馬家世譜一覽				1枚			活版		
113-16	大慈公義源公御事跡略	有馬秀雄		明治45年3月27日	1冊					
113-17	贈従三位有馬豊氏卿略伝	有馬秀雄		昭和6年4月	1冊					
113-18	有馬家粉議顛末「東京日日新聞」附録			明治21年6月2日	1冊					
113-19	明治維新久留米士族録高取調帳				1綴				原稿用紙	
113-20	地方落穂集天・人・地宝曆一三癸未年和				3冊					
113-21	楽屋並芝居記録	石田与右衛門		延享4年3月	1綴			墨書		於有馬家
113-22	松平右近将監上州館林領百姓騒動顛末			享保年度、大正7年9月写	1綴			墨書		
113-23	西藩田租考上下天保八年丁酉正月伊地知季安静稿				1綴				有馬農政研究所用紙	
113-24	農家益人の巻				1綴					有馬農政研究所図書
114	図書									
114-1	能久親王事蹟常陰会	東京借行社		明治41年6月	1冊					
114-2	故北白川宮殿下仙岳院駐泊に就いての夜話	伊藤清次郎述、仙台仙岳院		昭和6年10月	1部					

## 有馬頼寧関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	数量	内容	付属資料	記述法	用紙	備考
114-3	北白川宮能久親王殿下御事蹟	台湾教育会		昭和12年5月	1冊					
114-4	北白川宮稲垣其外	台湾経世新報社		昭和15年6月	1冊					
114-5	北白川宮永久王殿下	中島武・清水書房		昭和17年9月	1冊					
114-6	北白川宮能久親王御年譜概略	水戸部宇、仙台仙岳院		昭和19年11月	1部					
114-7	満洲第七一八部隊	黒竜小史		昭和18年1月23日	1冊					
114-8	総選挙概観朝日年鑑 別冊付録			1953年版	1冊					